



ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。



ノンVOC(Volatile Organic Compound)インキ大豆油インキの比率をほぼ100%に高めたもの。大気中への有機化合物の揮発はほとんどありません。



FSC® 認証用紙  
この印刷物には、FSC® 認証用紙が使用されています。



Waterless  
印刷時に有害な廃液がでない「水無し印刷」で印刷しています。

 **フジトランス コーポレーション**

2019年7月発行

本社  
〒455-0032 愛知県名古屋市港区入船一丁目7番41号  
TEL:052-653-3111 FAX:052-652-7110  
[www.fujitrans.co.jp/](http://www.fujitrans.co.jp/)

 **FUJITRANS**



# CSRレポート

FUJITRANS CORPORATION CSR REPORT 2019

# 2019

「和」でつなぐ人と社会

# 目次

Contents

- 02 CSR方針／運営体制
- 03 トップメッセージ
- 05 会社概要

## 法令遵守への思い

- 07 コンプライアンス強化月間  
コンプライアンスアンケート調査
- 08 各種勉強会
- 09 ストレスチェック制度  
マナー・モラル講習  
フレックスタイム制度の導入・育児短時間制度の見直し
- 10 弁護士相談  
健康講話会・個別健康相談会  
内部監査

## 安全の追求・品質の向上

- 11 安全衛生管理体制
- 12 「ゼロ災」キャンペーン  
フォークリフト安全運転強化キャンペーン
- 13 経営トップ 乗船安全点検  
緊急時海陸通報訓練
- 14 船舶緊急訓練  
Eメール安否確認訓練
- 15 普通救命講習会  
安全・安心職場づくり報告会
- 16 安全作業指導管理者 活動報告会  
事務作業ミス・トラブル防止セルフチェック  
フジトランス品質の心得の浸透

## 環境への取り組み・社会地域とともに

- 17 放流活動  
足船清掃
- 18 新入社員グリーンオリエンテーション  
清掃奉仕活動  
チャリティイベントへの参加
- 19 児童現場見学会  
ISO周辺美化活動  
被災地支援  
物品収集ボランティア
- 20 小学生社会見学  
児童福祉施設支援  
交通安全街頭立ち会い
- 21 2018年度CSR活動実績

## CSR方針

フジトランス コーporationは、「『和』の精神」を社是に掲げています。「和」とは、人の和を尊重し全社的な信頼と協調を基に一致団結する「内なる和」と、地球環境・地域社会・お客さま・協力会社との調和・協和・融和を基にした「外なる和」の二つから成り立っています。

その精神のもと、社員がお客さま・地域社会とともに成長していこうという思いを込め、CSR方針を「『和』でつなぐ人と社会」と決めました。そして、私たちがCSRを実践すべき三つの活動領域を設定し、それぞれに分会を設けて活動を推進しています。

### 企業として取り組むべき領域

- 法令と社会規範を守り、常に誠実で公正な活動を行う。
- 企業は社会の一員であり、良き企業市民として成長・発展していく。

### 本業そのものがCSRとなる領域

- 物流事業者の使命として、安全で高品質なサービスの提供をする。

### 社会へ感謝する領域

- 地球環境に配慮し、快適な社会と地域づくりに貢献する。
- 社会から学んできたことに深く感謝し、社会の期待や希望に応えていく。

## 運営体制

### CSR推進委員会



企業として  
取り組むべき領域  
→ 法令遵守

企業の  
出発点

CSR方針  
「和」でつなぐ  
人と社会

社会への  
還元

社会へ  
感謝する領域  
→ 環境・社会貢献

物流の  
使命

本業そのものが  
CSRとなる領域  
→ 安全・品質



トップメッセージ

# 「『和』の精神」でCSRを実践

代表取締役社長 系井辰夫

## 創業精神を起源とする 当社のCSR

当社は、創業者が掲げ、先人たちによって受け継がれてきた社是「『和』の精神」のもと、ステークホルダーの皆さまとより良い関係を構築し、社業を通じて地域・社会と共に発展することを経営の指針としてきました。

それが形となって表れた最たる例が、創業初期の1959年に発生した伊勢湾台風の折でした。猛烈な勢力を保ったまま上陸した伊勢湾台風は、甚大な被害をもたらし、特に名古屋の沿岸部では、強風と高潮の影響で広い地域が浸水しました。加えて、当時名古屋港の主要貨物だった大量の木材が陸地に打ち揚げられたことで、被害はさらに拡大しました。その惨状を目の当たりにした当社は、地域を守らなければという責任感から、

自治体の要請を受けるより先に復旧作業に奔走しました。現場で作業に当たった先人の方々によれば、陸地を埋め尽くすほど散乱し、全て回収するのに一カ月はかかると思われた丸太の山を撤去し、まずは道路を通さなければと奮闘したそうです。そして、創業者の号令のもと一致団結して果敢に取り組んだ結果、一週間もかからずに道路上の丸太をきれいに回収し、自治体や業界関係者を驚かせました。

泥にまみれながら地域の復興に励んだ創業者や諸先輩方の献身の歴史は、その後半世紀を経てなお、先輩から後輩に語り継がれています。今ではCSRの概念と結びついて、「『和』でつなぐ人と社会」というCSR方針に昇華しています。

現在、当社ではCSR活動として取り組むべき領域を

法令遵守、安全・品質、環境・社会貢献の三つに定義しています。そして、部門横断的な推進委員会を設置し、それぞれの領域に沿って活動しています。

## 三つの領域でCSRを推進

三つの活動領域の一つ目は、法令遵守、つまりコンプライアンスの領域です。個人が社会生活を送るうえで法律や規則に従わなければならないのと同じように、当社が事業を遂行するには国や地域、事業内容によってさまざまな関係法令を理解し、遵守しなければなりません。殊に、近年は企業による不祥事が多発しており、企業のコンプライアンス意識に対する社会の目が厳しくなっています。当社では社員が関係法令を学び、理解度を測り、自らの業務に生かして法令違反を防ぐために、各種勉強会やチェック体制を充実させています。

二つ目は、安全・品質の領域です。現場で働く従業員の安全を守り、一人一人が安全を心掛けて仕事に取り組むことは、作業の品質に直結します。物流業を営みお客さまからお荷物を預かる立場として、この領域は事業の土台であり、使命と捉えています。そのため、当社では年間を通じて教育や現場巡視、訓練を行っています。また、改善活動を通じてさらなる安全を追求しています。そうした取り組みの積み重ねが、作業の品質を確保し、サービスの向上につながるものと考えています。

三つ目は、環境・社会貢献の領域です。創業以来、当社は取引先やお客さま、地域社会の皆さまに支えられ、事業を続けることができています。当社を受け入れ、生かしてくださった方々に感謝し、報いるために、サービスの充実と言うまでもなく、本業以外でも社会の一員としてできることを模索しています。例えば、当社は事業フィールドである海や川の上流にある森林を守る活



動を行っています。物流事業者として船舶やトレーラーからCO2を排出する当社にとって、社有林「フジツブの森」を維持管理することは地球温暖化につながるCO2を吸収する一助となります。また、毎年、新入社員がそこで植樹をすることで環境保護の重要性を実感すると共に、当社のCSRの考え方を学び、人間性を育む人材育成の場としても位置付けています。

## これからも、社会と共に

当社が名古屋港を基点に事業を始めてから、約70年になります。その間、当社の事業領域は多様化し、進出エリアは今や国内にとどまらず、北米、欧州、東・東南アジアに拡大してきました。時代やニーズの変化と共に当社の事業規模も大きく様変わりしてきましたが、私たちが創業時の精神を忘れることは決してありません。社会とつながり、社会を支え、社会に求められる存在として価値を提供し続けるために、これからも私たちの使命を愚直に果たして参ります。

# 会社概要

## Company Profile

当社は1952年に名古屋市港区で創業した総合物流企業です。港湾運送事業・内航海運業を中心に海上・陸上・航空輸送、保管・在庫管理、梱包、通関など物流に関わるあらゆる事業を展開しています。特徴は、内航船舶を運航する船社としての側面を持っている点です。

設立当初は、木材の荷役を中心とする港湾運送会社でした。1960年代、モータリゼーションによる物流需要の増大を的確に捉え、1962年に我が国初の自動車専用RO/RO船「東朝丸(とうちょうまる)」を就航させることで内航海運業に進出。完成車の国内輸送分野で成長し、現在の基盤を確固たるものにしました。今日、北海道から沖縄まで国内約20拠点を有し、海陸一貫で車輜・一般貨物輸送を行っています。

一方、輸出入の取り扱い範囲とサービスの拡大のため、積極的に海外展開に取り組んでいます。1977年、シンガポールで駐在員事務所を立ち上げたことから始まり、フォワーディング業務、船舶代理店業、倉庫業、梱包事業、陸上輸送などに業容を拡大しました。今では北米、欧州、東・東南アジアで物流サービスを展開しています。

これらのネットワークを駆使して、完成車(乗用車、農機、建機など)や自動車部品を中心に、農産品、衣料品、化学品、非鉄金属、木材チップなど、さまざまな貨物を取り扱っています。また、長大貨物の輸送にも精通しており、宇宙関連機器や航空機部材、プラントなど豊富な輸送実績があります。

名称	株式会社フジトランス コーポレーション
本社所在地	〒455-0032 名古屋市港区入船一丁目7番41号
設立年月日	1952(昭和27)年9月29日
資本金	2億円
代表者	代表取締役社長 系井 辰夫
従業員数	1,424人(2019年3月末現在)
主たる営業種目	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 港湾運送事業</li> <li>● 内航海運業</li> <li>● 貨物利用運送事業</li> <li>● 航空運送代理店業</li> <li>● 通関業</li> <li>● 倉庫業</li> <li>● 梱包事業</li> <li>● 海上運送業 他</li> </ul>

## 事業ハイライト (2018年度)

### 2018年4月 FUJITRANS (VIETNAM) CO., LTD. 設立

ベトナム駐在員事務所を法人化し、FUJITRANS (VIETNAM) CO., LTD.を設立した。

### 2018年6月 「ふじき」就航

最新の内航RO/RO船「ふじき」が完成し、名古屋～仙台～苫小牧航路に就航した。

### 2018年12月 「いずみ丸」命名・進水

内海造船(株)で建造中の内航RO/RO船「いずみ丸」が、命名・進水式を迎えた。

### 2019年1月 (株)まるしん運輸 子会社化

(株)まるしん運輸(苫小牧市)に資本参加し、グループ会社に加えた。



就航した「ふじき」

## 事業所一覧

(2019年3月末現在)



# 法令遵守への思い

コンプライアンスはCSRの基本であり、公正な企業活動のよりどころとなるものです。当社はコンプライアンス体制の確立と維持を目的として各種勉強会や強化月間、意識調査を行い、全社員への啓発活動を推進しています。

Compliance

## コンプライアンスへの姿勢

当社は社是「和」の精神に基づいた経営理念のもと、コンプライアンスの実践をCSRの一つと位置づけています。コンプライアンスの実践は、企業が社会的責任を果たし、社会から信

頼される企業であり続けるために必要不可欠です。高い倫理観を持ち、法令はもちろん、社会規範から社内規程、また、さまざまなルールやマナーを守りながら業務に取り組んでいます。

2018/9/1(土)~10/31(水)

## コンプライアンス強化月間

### 各自で学んで法令知識を確認

一人一人が日頃の行動を見つめ直す機会として「コンプライアンス強化月間」を、毎年9月・10月に行っています。期間中は意識を高めるため、各事業所に啓発ポスターを掲示しました。また、事務職員向けには、社内ポータルサイトにコンプライアンス解説資料を掲載して確認できるようにしました。現場で働く社員には、主要な寄り場にある大型ディスプレイや各自のスマートフォンを使って、目と耳で資料を閲覧できるようにしました。



2018/11/1(木)~11/8(木)

## コンプライアンスアンケート調査

### コンプライアンス知識の習熟度を確認

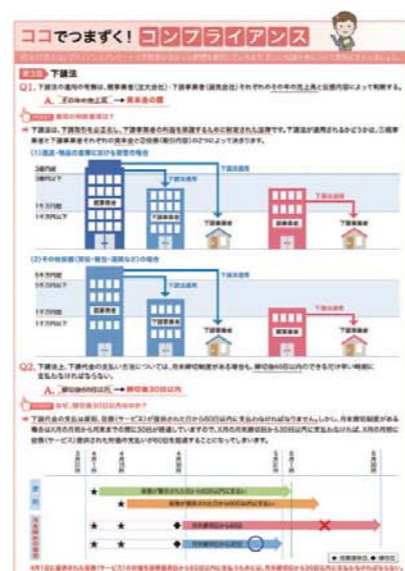
コンプライアンス強化月間の終了後、社員を対象に「コンプライアンスアンケート調査」を実施しました。事前に公開した解説資料の理解度を確認する内容です。

社内ポータルサイトでは、全問回答した後に自動採点され、間違えた箇所の解説をすぐに確認して理解を深めることができるようになっています。

2017年度のコンプライアンスアンケートで正解率が低かったテーマは社内報で取り上げて、わかりやすく解説しました。

#### 出題テーマ

- コンプライアンス ●労働基準法(労働時間、勤怠管理、過重労働・健康管理、労働災害)
- 労働者派遣法 ●独占禁止法 ●下請法 ●贈収賄の禁止 ●セクハラ・パワハラ
- マナー・モラル ●重要方針



## 経営基盤の強化

Compliance

年間

### 各種勉強会

### 業務に直結した法令の教育

当社は社員に対し、年間を通してコンプライアンス勉強会を実施しています。誠実で公正な企業活動を継続するため、社員が事業に関わる法令を正しく理解し、法令・規則・モラルの遵守に高い意識を持つことを目的としています。

4月

### 新入社員向け 各種法令勉強会

内容 民法、商法、会社法、労働基準法など  
基礎知識の習得

5月

### 新入社員向け 物流法令勉強会

内容 港湾運送事業法、内航海運業法など  
基礎知識の習得

6月

### 内航海運の規制と仕組み

内容 内航海運業法、内航海運組合法などについて



受講者に質問する講師

7月

### 港湾運送事業の概要

内容 港湾運送事業法や  
港湾の機能・仕組みについて

9月

### 貨物利用運送事業法の概要

内容 貨物利用運送事業法について



業務に関わる社員が受講

11月

### 港湾労働法の概要

内容 港湾労働の仕組みや  
港湾労働者派遣事業について

### 独占禁止法・下請法

内容 独占禁止法や下請法に関わる  
禁止事項などについて

12月

### 倉庫業の概要

内容 倉庫業法について



事例をふまえて説明

## 誠実な事業活動のために

Compliance

2018/9/3(月)

### ストレスチェック制度

#### メンタルヘルス不調を未然に防止

社会的関心が高まっている心の健康管理について積極的に取り組んでいます。2016年度からは、社員自身がストレスの程度を把握し、メンタルヘルス不調を未然に防止することを目的として、毎年9月にストレスチェックを実施しています。2018年度は全体の91%が受検し、ストレスへの対処(セルフケア)のきっかけとなる結果表を受け取りました。

今後も適正な制度運用を行い、ストレスとうまく向き合いながら働ける職場づくりを目指します。



2018/9/21(金)

### マナー・モラル講習

#### 社内講師による法令知識の共有

社員が正しい法令知識を身に付け、会社のコンプライアンスを強化するため、マナー・モラル講習を開催しました。知識や経験・ノウハウを持った社員を講師として「ビジネスマナー・内部通報制度・ハラスメント」「不祥事案の防止対策と危機管理」「密輸事件に関わる恐れを回避しろ」の3つをテーマに、さまざまな具体例と合わせて紹介しました。組織に属する社員として改めて理解を深め、業務を行う上での注意点を再認識しました。



マナー・モラル講習をする社内講師

2018/10/1(月)

### フレックスタイム制度の導入、育児短時間制度の見直し

#### 計画的な働き方を促進

働き方改革の一層の推進のため、事務職員を対象にフレックスタイム制度と完全週休二日制を導入しました。また、育児短時間勤務の取り扱いについても制度を見直し

ました。社員自身が計画的な働き方を考えるよう促し、年間の総実労働時間の低減と一人一人の自由時間の創出を目指します。

毎月

### 弁護士相談

#### 専門家がコンプライアンスをフォロー

本社で月1回、法律事務所の弁護士を招いて、法律相談会を実施しています。相談会では、法令の解釈や法的リスクの早期発見、コンプライアンス体制に関するアドバイスを行っ

ています。仕事でのさまざまなトラブルや悩み事だけでなく、社員のプライベートな案件も受け付けています。

毎月

### 健康講話会・個別健康相談会

#### 従業員の健康づくりをサポート

労働安全衛生法に基づき社員の健康を守ることは、企業の社会的責任の一つです。当社は2006年から、「健康教育の日」を定めて外部から保健師を招き、「健康講話会・個別健康相談会」を毎月実施しています。健康講話会は「心身両面にわたる健康づくり」をテーマにしています。



耳つぼ押しを实践

#### 実施実績

##### 4月 社会人のための健康管理 ～元気に楽しく働くために～

新入社員を対象に、健康管理に関する基礎的な知識の説明や、片足バランス能力チェックなども実施しました。また、健康診断の結果の見方を一覧にした健康診断結果ガイドを配付しました。

##### 5月～9月 平均寿命から考える健康寿命

##### 10月～3月 働きやすい職場作り ～周囲の変化に気づこう～



**個別健康相談会** 定期健康診断などで医師の所見があった人や長時間労働者らを対象に、健康指導を実施しました。

年間

### 内部監査

#### 会計・業務監査で内部統制を強化

内部監査室は、内部統制が有効に機能しているかどうかをチェックするために、組織から独立した立場で監査を実施しています。

2018年度は本社地区5部門、支店・出張所1部門、国内・海外関連会社3社を監査しました。結果は全て経営者に報告し、監査後もフォローアップする体制を整えています。

# 安全の追求・品質の向上

当社は安全な物流の実現のために、日々の安全教育や訓練、現場巡視による点検などの活動を欠かしません。そして、安全衛生管理体制や危機管理体制の充実を図り、大切な貨物はもちろん、従業員一人一人の安全確保に最善を尽くしています。

Safety Management

Quality Control

## 安全衛生管理体制

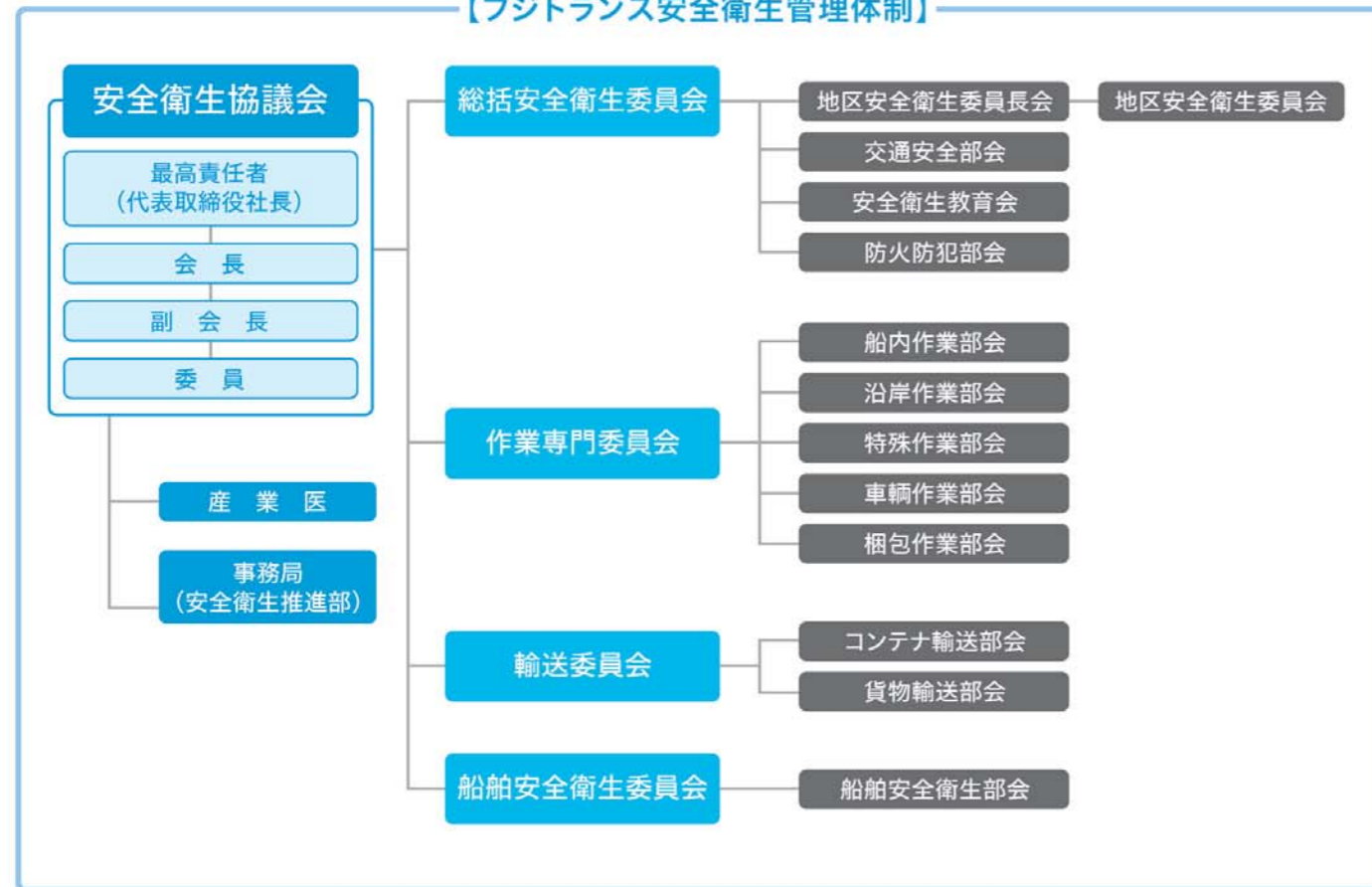
Safety Management & Quality Control

### 万全な管理体制を構築

安全は、総合物流企業としての重大な使命です。安全管理の徹底は、お客さまからの信頼につながり、事業全体の品質を高めることに通じます。当社では「安全」と「品質」は一体と考え、安全衛生協議会を頂点とした強固な管理体制を構築し、徹底した安全管理に取り組んでいます。



#### 【フジトランス安全衛生管理体制】



## 各種安全キャンペーン

Safety Management & Quality Control

上期:2018/7/3(火)~12(木)  
下期:2018/12/4(火)~13(木)

### 「ゼロ災」キャンペーン

#### 全ての事故「ゼロ」を目指して

フジトランスグループでは年2回、全国の事業所を対象に「ゼロ災」キャンペーンを開催しています。一人一人の安全意識を高め、安全で安心な職場をつくることを目的とした活動です。期間中は「全ての事故ゼロ」を目標に掲げ、経営トップ層による現場点検をはじめ、各専門委員会によるパトロールを行い、グループ丸となって取り組みました。また、社員がゼロ災キャンペーン用のワッペンやシールを身に付け、安全意識の向上に全員参加で努めました。



現場巡視で「ゼロ災」唱和



代表者によるタッチアンドコール

スローガン

上期

忘れるな  
ヒヤリで済んだあの思い  
基本動作で安全作業

下期

生かせ教訓 見直せ動作  
基本に忠実 安全作業

2018/10/13(土)

### フォークリフト安全運転強化キャンペーン

#### 作業の安全運転技術を競う

キャンペーンの一環として、フォークリフト技能競技会を実施しました。この大会は作業専門委員会が毎年主催しているもので、お客さまからお預かりした貨物を傷つけることなく取り扱う技術と、安全運転への意識を確認する取り組みです。競技会では、グループ会社を含む全国の事業所から選出された代表者が出場し、設定されたコースでケース積み走行やバックランク走行を行い、日頃の作業で磨いた技術や作業の手順、正確性、所要時間を競い合いました。



正確な運転技術が評価された上位3人



安全確認をしながら慎重にコースを走行

## 船舶安全活動

Safety Management & Quality Control

2018/10/22(月)~23(火) 経営トップ 乗船安全点検

### 経営トップによる航行中の安全点検

経営トップによる乗船安全点検を毎年行っています。2018年度は当社社長が2日間乗船し、名古屋から仙台までの航路で安全点検を実施しました。

入出港時の乗組員の的確な作業指示や動作確認、航行中の目視、レーダーによる見張りなどを巡視した後、機関室や艙内の4S状況、貨物の固縛状況を点検しました。

また、年末・年始停泊中の注意事項などについて乗組員と意見交換しました。



船長に激励品を手渡す当社社長(左)

2019/2/21(木) 緊急時海陸通報訓練

### 洋上で起こりうる緊急事態への対応

毎年、航行中の船舶で起こりうる緊急事態に備え「緊急時海陸通報訓練」を行っています。2018年度も、海運事業本部とグループ会社の鹿児島船舶株式が、九号地分室で実施しました。

この訓練は、仙台港を出港後、名古屋港を目指して航行中の自社船舶「清和丸」内で火災が発生し、乗組員に負傷者が出たという想定で行われました。会議室内で、航行中の船舶側と陸上の事務所側に分かれ、船舶側では関係各署への通報や消火活動、負傷者の搬送手順の確認、事務所側では船舶から連絡を受けて緊急対応チームの発令、合同対策本部の立ち上げなど、それぞれの対応手順を実践して確認し合いました。



緊急事態に対応する合同対策本部



船長役が火災発生を通報



船舶側から通報を受けた陸上の事務所側



経営トップに経過を報告する合同対策本部長

毎月 船舶緊急訓練

### 海難防止に万全の体制で

海難とは、船員や船体、貨物に損傷を生ずるもので、一度事態が起これば重大災害につながりかねません。発生要因としては、台風などによる気象や海象の影響、操縦判断の誤り、搭載機器の整備不良などが挙げられます。

このような海難を防止するため、当社の管理船舶では万一の不測の事態に迅速かつ冷静に対応し、損害を最小限に留めるためのさまざまな実地を行っています。例えば、火災・浸水・油流出対応のほか、かじが切れなくなった場合を想定した非常操舵訓練や救命いかだの使用トレーニングなども行います。また、船員法や港則法、海上交通安全法など、座学でも安全の知識や意識を高めています。このような教育訓練で培ったノウハウや改善点を共有し、乗組員全員が一丸となり、万全の体制で安全な海上輸送に努めています。



密閉区画での救助訓練



消火用ホースの点検



油流出防止のため部品を交換

## 安全教育・訓練

Safety Management & Quality Control

2018/6/12(火)・12/25(火) Eメール安否確認訓練

### 「安否確認システム」で災害に備える

フジトランスグループを対象に、Eメールによる安否確認報告訓練を実施しました。この活動は、社員の災害に対する意識の向上や周知、反復訓練による体制の強化を目的としています。

安否確認メールへの応答率は、前回実施した6月より6.3%減少の86%でした。減少した原因には、休暇中でメールの着信に気付かなかったことや、メールアドレスを変更した時に登録内容を変更していなかったことが挙げられました。

南海トラフ全域での大規模地震発生の危険性が切迫している昨今、いつ起こるかわからない災害に備え、普段から緊急連絡に速やかに対応できるよう取り組んでいます。



対策本部での応答状況の確認



## 安全教育・訓練

Safety Management & Quality Control

2018/10/4(木)

### 普通救命講習会

## 応急手当の重要性や心肺蘇生法を学ぶ

九号地分室で普通救命講習会が行われ、各部門の代表者34人が参加しました。講習会には名古屋市消防局 応急手当研修センターの指導員を講師としてお招きし、DVD鑑賞の他にAED(自動体外式除細動器)の操作方法や、人体模型を使った人工呼吸などの心肺蘇生法を体験しました。

参加した社員は、体験講習を通してAEDの使い方や胸骨圧迫の方法を学び、応急手当の重要性や救急に関する理解を深めることができました。



参加者全員で心肺蘇生法を体験

2019/02/20(水)

### 安全・安心職場づくり報告会

## より働きやすい職場への進化

安全衛生協議会主催で、2018年度「安全・安心職場づくり」報告会を開催しました。この報告会は、各事業所の危険作業を洗い出し、改善を図り、職場の安全性を高めることを目的としています。活動テーマである「全ての事故『ゼロ』へ 進化させよう 職場の安全」のもと、安全活動に取り組みました。海外拠点を含む52事業所の中から13事業所の代表者らがそれぞれの職場の実情に沿った改善活動や成果を報告しました。

私たちは、この取り組みを通じて働きやすい作業環境の整備やルール作りに役立て、職場安全の進化を絶え間なく推進していきます。



各事業所の活動報告を聴講する代表者

毎月

### 安全作業指導管理者 活動報告会

## 安全活動の情報共有

各職場には、監督や工長の経歴を持つ「安全作業指導管理者」という安全作業のスペシャリストがいます。それぞれが長年の経験で培った専門知識を生かし、不安全行為や作業環境の是正指導などのため、日々、各現場をパトロールしています。



「ゼロ災」唱和

パトロールの結果は、担当役員と安全指導管理者を含む安全衛生推進部の全員が参加する「安全作業指導管理者報告会」で報告し、改善につなげています。また、安全会議や部会などへ参加し、各現場の安全活動を報告しています。



意見交換によりさらなる改善を図る

## 品質の向上

Safety Management & Quality Control

2018/4月、12月

### 事務作業ミス・トラブル防止セルフチェック

## 品質セルフチェック

日常業務の中で起こりうる「うっかり・思いこみ・確認不足・不慣れ」などによる小さなミスを防ぐため、「事務作業ミス・トラブル防止」のセルフチェックを実施しました。「思いこみ防止のためにダブルチェック体制を取っているか」「作業工程を

確認するためチェックシートを活用しているか」などの設問に回答することで、一人一人が自分の業務を振り返る機会を作りました。また、実際に行っている工夫や対策を社員から募集し、防止策としてまとめてグループ会社とも共有しました。

年間

### フジトランス品質の心得の浸透

## 業務品質向上のための教育

CSR推進委員会 安全・品質分会では、当社の社員として仕事に取り組む姿勢や行動規範をまとめた「フジトランス品質の心得」を作成し、入社時に教育しています。

具体的には、当社で定める品質方針の重点項目目標である「安全を最優先し、人身・物損事故、納入遅延、誤出荷 ゼロ件」を達成するために注意すべき点や、従業員が意識すべき倫理的な行動を「フジトランス品質」と位置付け、項目ごとにスローガン・基本指針・行動ガイドラインを定めています。

2018年度は、現業員を対象にした過去事例勉強会や上位職者を対象にした職長教育などで改めて説明しました。また、事務職向けには社内イントラネットで配信し、いつでも確認できるようにしました。



災害と品質について説明

# 環境への取り組み・社会地域とともに

Social Action

当社を育てていただいた社会・地域、そこに住む人々に貢献することは、当社のCSRの根源です。環境方針を策定して社員の意識を高め、当社にとって事業を支える大切なフィールドである港や海で、地球環境に配慮した活動を行っています。

Environment Protection

## 環境保全活動

Environment Protection & Social Action

2018/5/16(水)

### 放流活動

#### マダイ放流で地域貢献

三重県尾鷲市の賀田湾で、新入社員、地元小学校の児童、障がい者就労支援事業所の方々と放流活動を行いました。この活動は、地元住民と連携したCSR活動で、3回目の開催となりました。

放流に用意した魚はマダイ400尾で、放流場所である賀田湾にも生息している魚です。放流活動により、海洋資源の保護だけでなく、地元漁業者の収量増加にもつながります。

地元小学校の児童らと共同で行うことで、地元の海の大切さを知ってもらう機会となりました。



放流されたマダイ



大きく成長するように願いを込めて

2018/5/24(木)・10/11(木)

### 足船清掃

#### ゴミのない名古屋港を目指して

毎年春と秋の2回、各部署の社員が参加して名古屋港の清掃を行っています。この活動は、社員が現場を移動する際に使う足船に乗って、名古屋港のガーデンふ頭や潮見ふ頭の海上と周辺河川に浮かぶゴミをタモ網で拾い集めるものです。

昨年までと比べるとゴミの浮遊量は少なかったものの、海上には河川から小枝や廃材、生活ゴミが流れてきており、回収したゴミの中にはカラーコーンもありました。

私たちの働く名古屋港がよりきれいになるよう、今後も継続していきます。



タモ網で海面に浮かぶゴミを回収



「港や川をきれいに」と書かれたのぼりを掲げ、清掃活動を実施

2018/6/18(月)~20(水)

### 新入社員グリーンオリエンテーション

#### 自然環境の大切さを学ぶ

毎年、新入社員研修の一環として、北海道でグリーンオリエンテーションを行っています。この研修は植樹体験を通じて、当社の環境保全活動を理解し、環境の大切さを学ぶことを目的としています。当社取締役引率のもと、新入社員ジェネラリスト21人が参加しました。

初日は第一次産業の体験を目的として、農業・畜産を営むグループ会社の(有)厚真ファームで畑作体験や畜産現場の見学を行いました。2日目は、岩内郡共和町にある社有林「フジツブの森」で地元森林組合のご協力のもと、キハダ70本を植樹しました。

植樹後には、新入社員がこれまでの研修を通して考えた、新たなCSR活動のアイデアを班に分かれて議論し、それぞれの意見を発表しました。



花の苗を一つ一つ丁寧に植えました



植樹を終えて記念撮影

## 社会貢献活動

Environment Protection & Social Action

2018/4/22(日)

### 清掃奉仕活動

#### 境内の清掃で地域に奉仕

福井県勝山市の平泉寺白山神社で毎年清掃活動を行っています。平泉寺白山神社は「苔寺」とも呼ばれ、境内は一面に緑のじゅうたんが敷かれたような美しい景観を作り上げています。

毎年行われる大祭に合わせ、当社取締役をはじめ各部の代表者と新入社員が、地元住民の方たちと一緒に冬の間に積もった木くずや落ち葉を集め、社務所周りを掃除しました。



清掃活動を行った参加者

2018/4/29(日)

### チャリティイベントへの参加

#### 被災地支援でバザーに出店

名古屋港ガーデンふ頭 つどいの広場で開催されたチャリティーイベント「築港祭 2018」に、CSRの新たな社会貢献の取り組みとして初めてバザーに出店しました。

築港祭は、東日本大震災で被災した陸前高田市の復興支援を目的に開催されているイベントで、今年で7回目を迎えた支援活動です。

今回の出店は、2017年度に入社した新入社員がグリーンオリエンテーションで提案した「被災地支援のためのバザー参加」から生まれた活動です。社内から不要な食器、洗剤、お酒などの物品を収集し、販売しました。このバザーで得た収益金と、事前に社員から募った義援金は、築港祭実行委員会を通じて陸前高田市へ寄付しました。



社内から収集した物品を販売



地域住民の方々とも交流を深めました

2018/7/3(火)

## 児童現場見学会

### 新造船「ふじき」就航披露に地元児童を招待

新造船「ふじき」の就航披露に地元小学校の4年生から6年生の児童約120人を招待しました。地元根差企業として、将来を担う子どもたちに見学を通じて物流業・港湾運送業界に親しみを持ってもらおうと企画したものです。

全長167mの大型船舶に乗り込んだ児童らは、普段立ち入ることのできないブリッジや船内をものめずらしそうに見学していました。



熱心に説明を聞く児童



ブリッジの計器に興味津々

2018/7/17(火)・11/30(金)

## ISO周辺美化活動

### ゴミのない社会を目指して

ISO環境美化活動の一環として、毎年事務所周辺の清掃活動を実施しています。

7月には「海の日名古屋みなと祭」の翌日に本社地区周辺の清掃を行いました。お祭りの翌日ということもあり、路上や歩道の植え込みには屋台から出たゴミやペットボトル、空き缶、たばこの吸い殻などが多く散乱していました。当日は朝から気温が上がり、炎天下での活動となりましたが、各部から参加した代表者は汗だくになりながらも協力してたくさんゴミを拾い集めることができました。

11月には、飛鳥分室や流通センターの周りの清掃を行いました。歩道の植え込みには、ゴミやペットボトル、空き缶、たばこの吸い殻、ダンボールなどが捨てられていましたが、以前よりはゴミの量が少ないようでした。

これからもゴミのない社会を目指して、清掃活動を実施していきます。



祭りの後の名古屋港をきれいになりました



たばこの吸い殻も一つ一つ拾いました

2018/08/02(木)・10/16(火)

## 被災地支援

### 義援金を寄贈

7月初旬、台風7号と梅雨前線などの影響に伴う大雨災害により、西日本を中心に甚大な被害が出ました。当社グループでも、被災者の救援や被災地区の復興事業を支援するため、岡山県と広島県にそれぞれ義援金を贈りました。また、グループ社員から寄せられた募金を、日本赤十字社を通じて被災地に寄付しました。

9月6日には北海道胆振東部を震源とした「北海道胆振東部地震」が発生し、当社グループのある厚真町では甚大な被害が出ました。これを受け、厚真町に義援金と社員から寄せられた義援金を寄贈しました。



厚真町長に目録を手渡す当社社長

2018/9/3(月)～10/12(金)

## 物品収集ボランティア

### 身近なものが大きな支援に

当社は、業界団体が積極的に参画している「リサイクルという、応援のカタチ。」に賛同し、社員から使用済み切手、不用携帯電話、不用パソコンを集めました。

使用済み切手は業界団体が集計した後、日本赤十字社に寄付されました。回収された不用携帯電話と不用パソコンは、東京2020大会オリンピック・パラリンピックの入賞メダルの原材料として活用されます。また、リサイクル後の資源売却益の一部がスペシャルオリンピックス2018愛知へ寄付されました。その他、回収されたパソコンの解体には多くの知的障がい者の方が携わり、雇用につながりました。

収集結果 (フジトランスグループ合計)

収集物品	個数
使用済み切手	6,832枚
不用携帯電話	87台
不用パソコン(ノート)	16台
不用パソコン(デスクトップ)	12台

2018/9/25(火)・10/25(木)・10/26(金)・10/30(火)・11/22(木)

## 小学生社会見学

### 物流の現場を学ぶ

9月から11月にかけて、東海地区の小学5年生児童が社会見学に訪れました。2018年度は約200人の児童が来社しました。

そのうちの1校、名古屋市立西築地小学校は、7月に名古屋港ガーデンふ頭に停泊した「ふじき」も見学した学校です。今回はバスに乗って荷役を見学し、貨物の流れを学びました。



配付資料で勉強する児童



元気にクイズに答える児童

## 児童福祉施設支援

2018/12/12(水)～12/25(火)

### クリスマスケーキを贈呈

地域社会への社会貢献活動として、児童福祉施設にクリスマスケーキをお届けしています。

2018年5月に名古屋で3カ所目の児童相談所として開設された東部児童相談所に加え、合計6カ所の児童福祉施設にクリスマスケーキやパンなどを贈呈しました。ケーキを嬉しそうに受け取る子供たちの笑顔に、心が温まりました。



クリスマスケーキを手渡す当社社員

2019/2/6(水)・3/14(木)

### バルーンショーを贈呈

新たな社会貢献活動の取り組みとして、名古屋市児童福祉センター内にある中央療育センター みどり学園のお楽しみ会と、同センター わかくさ学園の卒園生・退園生を送る会にバルーンショーを贈呈しました。

当社は毎年、同センターにクリスマスケーキをお届けしています。公演を依頼した風船職人が音楽に合わせて次々に作り出すバルーンの作品に、子どもたちは歓声を上げて喜んでいました。



風船で作られたキャラクター



バルーンショーを楽しむ児童たち

毎月

## 交通安全街頭立ち会い

### 交通事故ゼロを目指して

交通安全部会が主体となって、本社地区、九号地地区、金城地区の交差点で、朝の通勤時間に合わせて交通安全街頭立ち会いを行っています。街頭立ち会いは、交通事故ゼロの日(0が付く日)に合わせて毎月実施しています。

2018年度は本社増築に伴い、仮事務所の近くの築地口付近でも実施しました。毎月、グループ会社を含む各部の代表者が参加し、シートベルトの着用や交差点での一旦停止など、交通マナーの徹底を呼びかけました。



のぼりを掲げて交通安全を呼びかけ

# 2018年度CSR活動実績

ホームページにCSR活動に関する情報を掲載しています。▶ [www.fujitrans.co.jp/csr/](http://www.fujitrans.co.jp/csr/)

## 1 森を守る活動

### ●フジツップの森 植樹活動

	造林	環境教育他	計
2015年度	7,980	70	8,050
2016年度	0	70	70
2017年度	10,220	70	10,290
2018年度	4,640	70	4,710



## 2 海を守る活動

### ●足船清掃

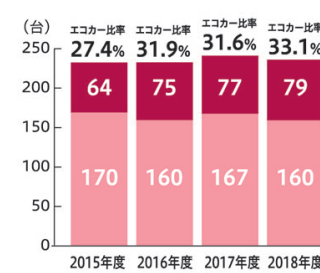


### ●放流活動

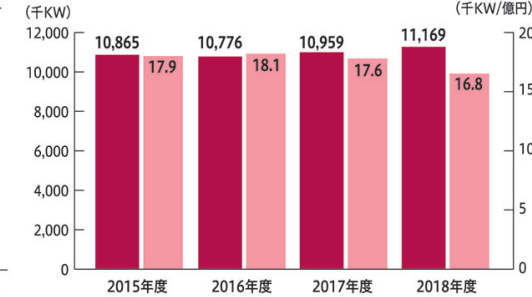


## 3 省エネ活動

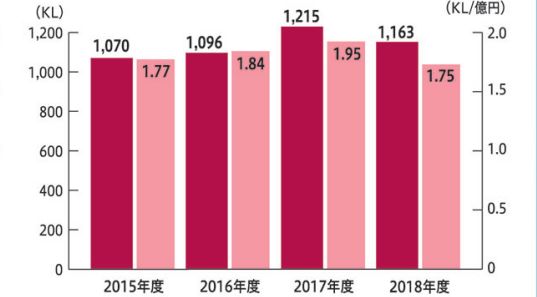
### ●社用車に占めるエコカー比率の推移



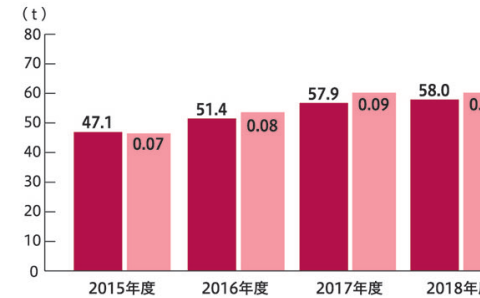
### ●電気使用量の推移



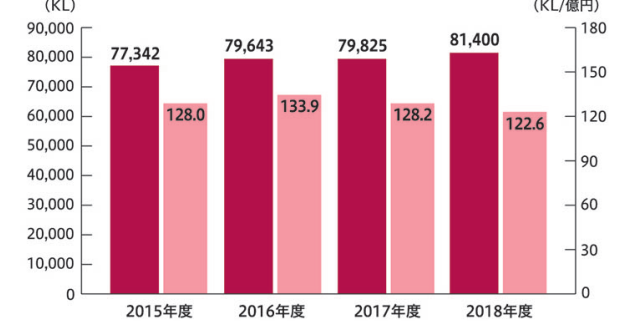
### ●ガソリン・灯油・軽油使用量の推移



### ●LPG使用量の推移



### ●A・C重油使用量の推移



1

3 4 6

5

3

5

## 4 地域貢献活動

### ●ISO周辺美化活動



### ●児童福祉施設支援



### ●チャリティイベントへの参加



### ●児童現場見学会



●清掃奉仕活動 ●物品収集ボランティア ●小学生社会見学 ●交通安全街頭立ち会い

## 5 安全品質のための活動

### ●「ゼロ災」キャンペーン



### ●普通救命講習会



### ●船舶緊急訓練



### ●安全作業指導管理者活動報告会



●経営トップ 乗船安全点検 ●フォークリフト安全運転強化キャンペーン  
●Eメール安否確認訓練 ●緊急時海陸通報訓練

## 6 法令遵守の活動

### ●各種勉強会



### ●健康講話会・個別健康相談会



●フレックスタイム制度の導入・育児短時間制度の見直し  
●コンプライアンス強化月間 ●内部監査  
●弁護士相談 ●ストレスチェック制度